

鳥羽市・サンタバーバラ市
中学生交換派遣事業ホームステイ
体験記

市民課人権・市民交流係 ☎ (25)1126



市内の中学生4人が7月27日～8月5日にかけて姉妹都市サンタバーバラ市を訪れ、8月9日～17日にはそれぞれの家庭がサンタバーバラ市の中学生を受け入れました。

すばらしい体験をした中学生のみなさんにホームステイ先での体験や受け入れをして感じたことについて感想をいただきました。

サンタバーバラでの素敵な体験

鳥羽東中学校1年 岩崎 恵麻

私が今回の交換派遣事業に参加したきっかけは、昨年、同じ事業に参加した姉の影響でした。私はまだ中学一年生で、英語もあまり喋れないという不安がありました。姉のように「違う文化の人達とコミュニケーションをとりたい」「日本と違う文化を知りたい」と強く思い、参加することを決めました。

出発の前日の夜にはワクワクする気持ちが止まりませんでした。それと同じくらいに不安もありました。でも家族は、「恵麻ならきつと大丈夫、頑張れ」と出発の時まで私の背中を押して励ましてくれました。

飛行機を降りると日本語ではなく英語が溢れていて、「アメリカに着いた」という実感がわきました。サンタバーバラに着



くと、ホームステイ先のカシアが私を抱き締めて、温かく迎えてくれました。すごくホッとしたのを覚えています。

カシアは、すごく優しくお姉ちゃんみたいで、素敵な親友になりました。私が困ったときはいつでも気にかけてくれました。カシアのお母さんのジュリアは、すごく気を遣ってくれる優しい人です。カシアのお父さんは、すごく明るくて、冗談混じりで話してくれるおかげで、私を笑顔にしてくれました。そして犬のルナと猫のパプがとても可愛いく、ホストファミリーのおかげで毎日楽しく過ごすことができました。

サンタバーバラでの毎日は充実すぎて、毎日がすごく早く感じました。2日目のウェルカムパーティーでは、沢山の人が歓迎してくれて、改めてアメリカのフレンドリーさに感動しました。「日本にも、初めて会う人でもフレンドリーに接する文

化があればいいのにとすごく思いました。

4日目に市長訪問に行き、議会や市長室を見せてもらいました。そこには姉妹都市の国からの贈り物などが飾られており、鳥羽の真珠でできた置物も飾ってありました。鳥羽とサンタバーバラの繋がりをみるのができてとても嬉しかったです。

サンタバーバラのお祭り「ファイエスタ」では、中にカラフルな紙吹雪が入ったたまごの殻を人の頭などにぶつけて割ると言う面白いイベントがあつて、沢山たまごを投げ合いました。

最終日、私はバスに乗る前、サンタバーバラとカシアの家族とお別れするのが寂しくて泣いてしまいました。カシアの家族達は、私がサンタバーバラへ来たときのように優しく抱き締めてくれました。

サンタバーバラでの生活はすごく充実していて、私の一生の思い出になりました。今回の事業で学んだことを活かして、これから英語への向上心を持って、しっかりと英語の勉強を頑張ろうと思います。

忘れられない思い出

鳥羽東中学校3年 宮本 一期

私は小さい頃から海外に興味を抱いており、いつか海外に

行き文化に触れ様々な人達と交流したいという気持ちがありました。

留学に行く数日前から交換留学の相手であるリーランドと連絡を取り合っており、お互いの好きなスポーツや趣味などを話し合い、食の嗜好など共通点も多くありました。彼は対戦ゲームが凄く好きで、その中でもお気に入りの戦闘機が「YAMATO」でした。日本人なら誰もが知る戦艦大和をモチーフにしているようでした。それを見てすぐに私の曾祖父が父の大和の乗組員で、船と共に亡くなったこと、そして鳥羽に住む祖父のことを思い出しました。祖父は、曾祖父が大和に乗っていたことをよく話しており、日本にリーランドが来てお互いもし嫌な気持ちになったらどうしようかと悩みました。

リーランドが鳥羽に来て買



い物に行つた時、1mほどの大きな大和の模型を気に入りに買っていました。そして、大和を祖父の家に持つていくことになり、私は様々な不安に襲われました。ドキドキの中、祖父と大和をもつたリーランドの対面となりました。意外にも、祖父は大和を見て喜んでいました。そして、祖父とリーランドで大和の良さを日本語と英語の一方通行同士で、言葉は通じていないのに熱く語っていました。それを見て私はグツと熱くなりました。

私は、戦争は過去のものであり、今を生きる私達は憎しみ合わずに共に手を取ることが大事なんだと気付かされました。私は今回の留学でより多くの視点から物事を考えられるように成長したと思います。最後に、このような貴重な体験をさせてくださった鳥羽市、鳥羽市国際交流協会のみなさん、そしていつも応援してくれる家族に感謝したいです。

サンタバーバラの思い出 鳥羽東中学校2年 橋爪 拓哉

私がサンタバーバラに到着してバスから降りたときは恥ずかしくて話しかけづらかったけれど、勇気を出して話すことにしました。ホストファミリーの



お父さんが近寄ってきてくれて、優しく元気に挨拶をしてくれました。その日の夕食はハンバーガーショップに出かけ、みんなで食事をしました。最初の日のうちにホストファミリーやいろんな人たちと仲良くなれました。

次の日からサンタバーバラのいろんなところに行ったり、家でゆっくり過ごしたりしました。その中でも特に楽しかったのは、ウェルカムパーティーでした。パーティーの最中にみんなプールの中で遊んだり、みんなで食べ物を持ち寄ってタコスを作ったり、これまで食べたことのないものを食べました。日本から来たばかりの空手の太極上段という形を披露しました。みんなから「かっこいい」と言ってもらえて、とてもうれしかったです。その後はプールに飛び込んだり、ボールを投げ

あつたりして遊びました。そこでは、一期さんや恵麻さんのホストファミリーにも話しかけて、交流をしました。そのとき初めて話しかけたのに、すぐに仲良くなれました。

フィエスタではお父さんが先に行つて、場所取りをしてくれました。その後で家族みんなでそこに出かけました。全員が揃ったときに前もつて買つてあつたたまごを頭にぶつけられてびっくりました。たまごの中が紙吹雪だと知つて、安心しました。

最終日にはリーランドさんの家に泊まりました。みんなでピザを食べて、銃のおもちやで屋外で遊びました。遊び疲れて家に入ると、ガレージにソファや布団、テレビまでありました。そこで寝るまでアニメを観て過ごしました。翌朝は、お父さんと二人で日本対アメリカの女子サッカーの試合を観戦しました。他のみんなが起きてきたので、港に出かけて新鮮なウニや刺身を食べました。出かけたところ全てが楽しい思い出です。他にも、家族とショッピングをしたり、海でサーフィンをしたり、ゴルフやボーリングにも出かけたなど、サンタバーバラでしたこと全てが私にとって貴重な経験になりました。

このプログラムに応募して本当によかったです。鳥羽市のみなさん、サンタバーバラに行かせてくれて、ありがとうございました。

いい思い出になった留学 加茂中学校2年 宮本 証

私は留学が決まった時、最初に起こった感情は「不安」でした。もちろん嬉しい気持ちや楽しみでワクワクもしたけれど、ふとした瞬間に「言葉が通じない」「人種差別」など不安が押し寄せたりもしました。

いざ、サンタバーバラへ着くと、迎え入れてくれたブルックリンとその家族、他の留学のメンバー達の温かさで私は不安などすぐに忘れてしまいました。

サンタバーバラで毎年行われるフィエスタは卵形のボールを人に当てて割るという一風変わった伝統行事に参加させてもらったり、学校見学をさせてもらったりして、日本とは全く規模が違い圧倒されることもありましたが、たくさんさんの体験をさせてもらいました。

私が特に印象に残ったことは、ブルックリンと毎朝家の前にあるビーチを散歩したり、お互いの言葉は分からないにも関わらず何故か意味が分かつて2人で大笑いしたりしたこと

です。行く前に感じていた不安の1つだった、「言葉が通じない」は無駄な心配でした。

スーパーで買い物をしている時、ベビーカーに乗った赤ちゃんが可愛くて構っていたら、お母さんが急に赤ちゃんを抱っこしたので、私は外国人だし警戒させてしまったと思い、その場を離れようとした。すると、お母さんは私に、赤ちゃんを抱っこしても良いよとジェスチャーで伝えてくれました。赤ちゃんはミルクの香りがして私の弟が赤ちゃんのときと同じでした。可愛い赤ちゃんを抱っこできたことは凄くうれしかったです。

私は今回の留学を通じて、言葉や人種の壁は乗り越えられることを学びました。これからは初めてのことを恐れず、積極的に取り組んでいこうと思います。

